

(別冊1) 令和4年度 熊本市エイズ総合対策報告書

令和4年度  
各団体での取り組みについて

令和5年(2023年)4月

熊本市保健所 感染症対策課

令和4年度(2022年度)熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

|    | 構成             | 氏名                    | 所属                          |
|----|----------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1  | 学識経験者          | まつした しゅうぞう<br>松下 修三   | 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 特任教授 |
| 2  |                | まえだ ひとみ<br>前田 ひとみ     | 熊本大学大学院生命科学研究部 教授           |
| 3  |                | くほ まさこ<br>久保 昌子       | 熊本大学大学院教育学研究科 教授            |
| 4  | 保健・<br>医療関係    | とよ井 まさる<br>土井 賢       | 熊本市医師会 理事                   |
| 5  |                | たなか やおき<br>田中 弥興      | 熊本市歯科医師会 副会長                |
| 6  |                | まるめ しんいち<br>丸目 新一     | 熊本市薬剤師会 会長                  |
| 7  |                | ながの ともこ<br>永野 智子      | 熊本県看護協会 副会長                 |
| 8  |                | しいば ひろあき<br>椎葉 浩晃     | 熊本県栄養士会 熊本市地域事業部副部長         |
| 9  | 教育・<br>青少年団体   | なつぎ よしひろ<br>夏木 良博     | 熊本県公立高等学校PTA連合会 会長          |
| 10 |                | あんどう まりこ<br>安藤 真理子    | 熊本県私立中学高等学校保護者会 副会長         |
| 11 |                | うめだ たかひろ<br>梅田 隆弘     | 熊本市PTA協議会 常任理事              |
| 12 |                | みやまき のりお<br>宮崎 紀男     | 熊本市青少年健全育成連絡協議会 理事          |
| 13 |                | また ともこ<br>瀬田 朋子       | 熊本県高等学校保健会 理事               |
| 14 | 人権擁護関係         | みやまき ななみ<br>宮崎 奈那海    | 熊本県弁護士会 弁護士                 |
| 15 |                | よむら じょうじ<br>吉村 譲二     | 熊本市民生委員児童委員協議会 副会長          |
| 16 | 企業関係           | かわた あきひと<br>川田 寛仁     | 熊本商工会議所 総務部 次長              |
| 17 | 労働団体           | かまた まさひろ<br>柿田 将博     | 連合熊本地域協議会 事務局長              |
| 18 | 報道関係           | はやしだ けんいちろう<br>林田 賢一郎 | 熊本日日新聞社 編集局文化生活部 編集委員       |
| 19 | ボランティア団<br>体関係 | たかやま いくこ<br>高山 いくこ    | 熊本市食生活改善推進員協議会 理事           |
| 20 |                | こうぞう                  | Safety Blanket 代表           |

## 各団体における取り組み実施状況及び意見について

### 【学識経験者】

#### ■熊本大学大学院生命科学研究部

くまびあの学生の呼びかけにより、保健所にて勉強会及び施設見学会を実施した。性感染症の現状や熊本市で行われているエイズ対策について学び、今後の啓発活動に活かせる情報を得ることができた。

#### ■熊本大学大学院教育学研究科

学科の学生数が多く、採用試験前の感染防止が最優先となったため、今年も多くの授業がリモートとなった。

双方向型の授業とはなりにくかったが、授業でエイズ・STIに関して取り上げた。

学生は看護師免許を有するため再度の学習となったと思われるが、折に触れ、授業で取り上げることが大事だと感じた。

また、教育実習では、中学校においてSTIに関する授業に参加することができたようである。

年齢の近い学生が、中学生に話すことでピアカウンセリングのような効果が得られると考える。

今年度は、海外からの留学生についての相談を受けた。

諸外国ではエイズ感染が珍しいことではないという事実を踏まえながら、留学生として日本で継続的に治療をうけることなどをお話した。

その際に、熊本市で本委員会が熱心に取り組まれていることも紹介させていただきました。

留学生担当の先生は、エイズに関してどう判断してよいかわからず困っておられたようで、世間一般的には、多様な理解をされているのだなと感じた次第です。

今回の経験を踏まえ、今後、留学生をはじめとする外国人に対する医療支援の必要性が高くなると感じました。

## 【保健・医療関係】

### ■熊本市医師会

- (1) 医師会員に対して通年行われている「学術アーベント」や「リフレッシュコース等の講演会は新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が殆ど行われていない現状であるが、各種講演会を通じて医師会員への啓発を継続する。
- (2) 本会のテレビ広報番組「TKU医療大百科」において、性感染症やエイズに関する情報提供を継続して行う。
- (3) 本会広報紙「森都医報」2022年11月号に、に本会議についての報告(後掲)を掲載し、会員に対してエイズ・STD診療の重要性を喚起した。また、同広報誌には、行政(熊本市保健所)からの情報「HIV/エイズの現状と対策について」を掲載している。

## 令和4年度 熊本市エイズ総合対策推進会議

担当理事 土 井 賢

令和4年10月4日（火）熊本市エイズ総合対策推進会議がオンライン方式にて開催されました。本会議はエイズの正しい知識の普及啓発、エイズに対する偏見や差別のないまちづくりに寄与することを目的とし平成8年より毎年開催されています。

### 講話1 「エイズの現状と課題」

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター・臨床レトロウイルス学分野特任教授 松下修三先生よりご講話いただいた。

1983年HIVウイルスの分離同定後40年が経過し、1997年多剤併用療法によりAIDS死亡が激減、現在は1日1回1錠の内服治療により治療可能で、薬物療法（ART）によりHIV増殖を抑制すれば、パートナーへの感染が起こらない（U=U）こと、暴露前予防内服（PrEP）により90%の感染予防が可能であることが明らかとなっている。症例の長期生存・高齢化に伴い、現在HIV治療は慢性長期合併症の予防と治療管理が主体となっており、悪性腫瘍や糖尿病、心血管イベントの併発、認知症やメンタルへの対応が重要である。一方新規感染例は減少しておらず、感染拡大防止の観点からは早期検査早期診断が重要であるが、コロナ禍で検査機会が減少しており、今後診療所検査や郵送検査、自己検査の導入が望まれる。

### 講話2 「HIV患者の療養支援と熊本市の課題」

熊本大学病院看護部副看護師長 高木雅敏氏から「熊本県の拠点病院の現状、熊本大学病院での診察状況、患者が抱える問題と療養支援」についてご講

話いただいた。

熊本県ではHIV陽性患者は全例熊本大学で通院加療されており、ほぼ100%でHIVはコントロールされている。併発症に対しても熊大で対応しており、透析や歯科との連携が課題である。HIV患者の高齢化に伴い、生活習慣病や癌が発症しやすく、精神疾患の合併、支援者の高齢化や不在化が問題であり、在宅医療についても通所や入所施設の受け入れが困難な状況である。演者より、「疾患への理解を持ってほしい」「差別・偏見を持たないでほしい」「個人情報をしっかり守ってほしい」との要望が示された。

### 事務局よりの報告

#### (1)エイズおよび性感染症の発生動向

全国の令和3年度の新規HIV感染者報告数は742件（昨年750件）と横ばい、新規AIDS患者報告数は315件（昨年345件）と低下傾向である。また熊本県での報告数は令和3年度の新規HIV感染者報告数は5件（前年5件）、新規AIDS患者報告数は5件（前年2件）と、4～5年前とほぼ同様の傾向との結果であった。

#### (2)平成30年度～令和4年度HIV感染および性感染症の予防対策（計画）

熊本市内の保健所で令和3年度にHIV抗体検査を受けた件数は505件（平成31・令和元年度1,355件）、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により大きく低下した。5カ年計画では、令和4年の検査目標を1,780件とし、広く検査体制の周知を行い、市民にとって利便性の高い検査

### ■熊本市歯科医師会

令和5年2月9日に、熊本市エイズ総合対策推進会議の松下修三先生をお招きし、歯科医師向けの講演会を行った。

本講演会の映像は、熊本県歯科医師会から本会会員のみ視聴できるよう配信する。

また、会員向けに「HIV患者歯科診療マニュアル(仮)」を作製予定。

毎月発行の本会広報誌にて、エイズ・HIV感染症関連情報を掲載し、全員へ周知している。

### ■熊本市薬剤師会

- (1) 学校薬剤師による中、高校生への薬物乱用防止教室などでの啓蒙
- (2) 薬局での相談時、医薬品について説明
- (3) 薬剤師会研修会で情報の提供を実施

### ■熊本県看護協会

(1) 12月の世界エイズデーには協会内に啓発のためのポスターを掲示した。

(2) 熊本県看護協会では、熊本県全域を対象に小・中・高校向け「性教育出前講座」を実施し、その中で「エイズ・STI対策」についても講義している。

コロナ禍が続く中で令和4年度も、昨年度同様に対面及びオンラインによる講義を実施した。オンラインによる講義の普及で昨年度より実施校は増加したが、熊本市内の学校からの依頼は中学校1校、高等学校2校であった。

|   |                            |   |   |
|---|----------------------------|---|---|
| { | 小学校：0校<br>中学校：16校<br>高校：4校 | } | 計20校 延べ3,286人受講(2/15現在)<br>(25回実施：同じ学校で学年別の実施有) |
|---|----------------------------|---|---|

(参考)

|       |   |                           |   |      |
|-------|---|---------------------------|---|------|
| 熊本市以外 | { | 小学校：0<br>中学校：15校<br>高校：2校 | } | 計17校 |
|-------|---|---------------------------|---|------|

○エイズ・STI対策全般について

治療薬の進歩により、HIVに感染しても普通に生きられる時代になったことや性感染症の予防のためには、正しい知識のアップデートが必要であると改めて感じました。また、梅毒の増加については、先天梅毒という次世代の健康にも影響を及ぼす疾患であるため、青少年期から教育の機会を確保することは重要課題と考えます。

■熊本県栄養士会

令和4年度の研修会でエイズ・性感染症についてのパンフレットを20名程に配布しました。  
役員会で講話の内容を共有しました。

○エイズ・STI対策全般について

栄養士会としての活動がまた少なく、上記程度の活動になっていますが、医療や福祉のスタッフが多いので、各病院や施設での感染委員会等でとりあげられないか、相談したいと思えます。

【教育・青少年団体】

■熊本県私立中学高等学校保護者会

今年度もコロナ感染症の影響により、保護者会長会議をほとんど開催できなかったため、エイズ・STI対策に関する取組みもできませんでした。  
来年度は対面での会議ができるといいですね。

■熊本市PTA協議会

各区より集まる熊本市PTA協議会常任理事会において、各区代表理事へ報告を行い、各区にて行われる定例会にて各区の会員に向けた周知をお願いしている。

○その他

毎月第1木曜日19時から中央公民館にて熊本市PTA協議会常任理事会が開催されており、理事会始めに時間をとることができるので情報の発信にご活用ください。

■熊本市青少年健全育成協議会

エイズ、梅毒等の青少年、若い世代への認知、告知活動等

○エイズ・STI対策全般について

正しい知識を義務教育、家庭教育の場で学ぶ機会を増やしていくと良いと思います。

○エイズ対策推進会議について

リモートより対面になれる日がくることを望みます。

■熊本県高等学校保健会

世界エイズデーにちなんでポスターの掲示や、保健だよりでの啓発を行った。

熊本市地区の養護教諭へ、対策推進会議の資料を提供し、各校で活用を呼びかけた。

発達段階に応じた性教育を行う中で、エイズ・性感染症（STI）についても取りあげている。学校保健委員会においても、性感染症について学校医から予防について触れていた。

【人権擁護関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

エイズ・STI対策として組織で特別な取り組みは行っておりませんが、会議の内容を理事会にて報告し、組織内での理解を広められるようにしました。

○エイズ・STI対策全般について

同じ感染症としてここ数年は新型コロナウイルス感染症への対応が主だっておりますが、新型コロナに罹った方への偏見や差別がなされないよう民生委員・児童委員として、人権に配慮した対応を心がける必要があると感じています。

また、エイズだけでなく、最近は若い方の梅毒感染者が増えてきていると耳にしています。新型コロナ同様、梅毒などの感染症に罹ることで差別等に繋がらないよう対応していく必要があると思います。

【企業関係】

■熊本商工会議所

コロナの影響により、企業支援対応に時間がとられ、取り組みができておりませんが、社会経済活動が徐々に再開され、インバウンドや交流機会が増えてきておりますので、今後は周知・啓発に取り組んでいきたいと思っています。

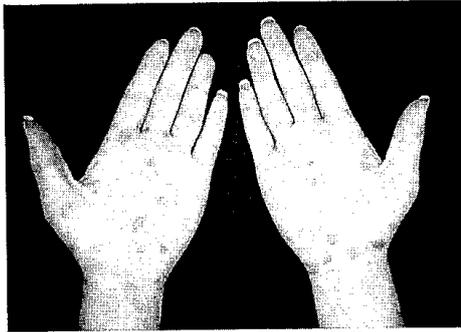


# 不特定多数性交渉に注意

## 若者中心 SNS影響も

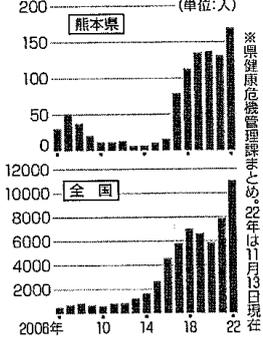
### 梅毒県内最多

性感染症である梅毒の全国の感染者が、現在の調査方法となった1999年以降、年間を通じて初めて1万人を超えた。県内でも10日までに170人の感染が報告され、過去最多を更新中。若者を中心に感染が広がるが、専門家は「性風俗産業や交流サイト(SNS)を利用した、不特定多数との性交渉の増加が一因ではないか」と指摘する。



梅毒感染後、12週以降に手のひらに現れた赤い発疹 (水前寺皮膚科医院提供)

梅毒感染報告者数の推移 (単位:人)



水前寺皮膚科医院 井上雄二院長

梅毒は2010年代半ばから増え、13日時点の全国の感染者は1万1018人(暫定値)。県内では17年以降、急増している。原因として、熊本皮膚科医会長で、水前寺皮膚科医院(熊本市中区)の井上雄二院長は「SNSの発達で、異知らぬ人同士が簡単に知り合えるようになったからではないか」と推測。「ワンランド」など、SNSを介して性交渉が、性行為の際に性器や肛門、口の接触によって感染。初期は無症状で、症状が出るのに3週間、血液検査で陽性が検出できるようになるまでに6週間かかる。この

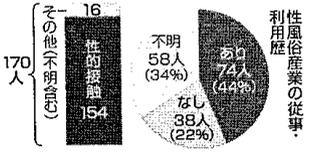
※県健康危機管理課調べ。22年は11月13日現在  
 県健康危機管理課によると、県内の今年の梅毒感染者170人(13日時点)のうち、性風俗店で働いていたり、利用していた人は74人で4割以上を占めた。医師が保健所に提出する症例には、6カ月以内の性風俗産業の利用歴の有無を記入する項目がある。性別をみると男性109人、女性41人、年代別では男性は20〜50代、女性は20〜30代に集中していた。性的接触一が原因とみられる人は154人で、全体の9割に達した。

## 性風俗関連4割超

梅毒は「一掃」などと呼ばれる紅斑が全身に現れる。井上院長は「バラ疹が

ため、症状がない期間に他人にうつす恐れがある。感染すると、病巣が触れた性器に初期硬結(しこり)や潰瘍ができる。性器が腫らったり痛みたりするが、1〜2週間を過ぎればなくなる場合も、服の付け根のリンパ節が腫れ、脱毛したりすることもあり、12週以降には「バラ疹」と呼ばれる紅斑が全身に現れる。井上院長は「バラ疹が

感染経路別の梅毒報告数(13日現在、県内)



梅毒の予防策として、同業は性行為の際はコンドームを使い、不特定多数との性交渉を避ける。性風俗産業に従事する人は、定期的に検査を受ける。

熊本機能病院(熊本市北区)顧問で、長年、梅毒患者を診てきた皮膚科医の小野友道医師(82)は「梅毒は子どもの人生やパートナー、子どもにまで影響を及ぼす恐れがある。若い世代には複数の相手との性交渉や、風俗利用による感染が多いことを知っている」と警告している。(豊田美奈)

できてから受診する患者が多いが、その間の性行為で人に感染させてしまっている。非常に厄介な病気」と注意を促す。放置すれば、皮膚や筋肉などに腫瘍ができ、臓器障害が出て死に至ることもある。

梅毒は早期に治療すれば治る病気だ。治療ではペニシリンを4〜8週間、1日3回内服する。今年からペニシリンの注射が保険適応となったが、アナフィラキシーの報告も寄せられている。妊婦が感染した場合、胎盤を通じて胎児が感染することがあるほか、死産や早産、臓器の形成不全、難

男性20〜50代  
 女性20〜30代

腰などの危険性を高める。「梅毒は日V(エイズウイルス)と一緒に感染するケースが多く、次に急増するのはエイズ(後天性免疫不全症候群)ではないか」と危ぶむ井上院長。20代の感染者が多いことから「エイズは完治せず、発症の予防に一生薬を飲み続けなければならない病気。性感染症の怖さについて、学校でも教えてほしい」と危機感を募らせる。(豊田美奈)

(熊本日日新聞 2022. 11. 19 朝刊)

## 【ボランティア団体関係】

### ■熊本市食生活改善推進員協議会

エイズ、STI対策についての話を、理事会、リーダー会、会議等で周知しました。

### ○エイズ・STI対策全般について

STIの感染では、学校での取り組みが特に必要。

感染が広がっているのが心配との声が…。

### ■Safety Blanket

熊本市がSNSで告知している検査情報の拡散

熊本市保健所から情報提供があった特例検査などのSNS上での周知告知

### ○エイズ・STI対策全般について

近年、熊本でも梅毒感染が増えている報道を見るが、その増加傾向と熊本でのHIVの感染数の推移はやはり重なる部分があるのか？

HIV感染ハイリスク層も、梅毒の増加傾向の中で、増加傾向があるのか？